

公表	事業所における自己評価結果
----	---------------

事業所名	公表日 2026年3月30日					
りんく泉崎教室	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・ 体制 整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		学習スペース、余暇時間活動スペースなどうまく分けることができている。子どもたちもそれを理解して行動している様子が伺える為適切であると考えられる。 利用定員は、指導訓練室等のスペースを踏まえて適切に設定しており、安全かつ落ち着いて活動できる環境を確保しています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5	1	常に、現場着く職員、学習を見る職員と振り分けができており、また送迎などで外に職員が出る際にも現場職員で回すことができる点から適切な人数になっていると思われる。	送迎の変更が度々ある為、イレギュラーで時間変更が起きた際に現場職員が少なくなる場合がある為その点ではより工夫が必要になると考える
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	生活空間は、視覚的に分かりやすい配置や表示を行い、児童が安心して過ごせるよう構造化しています。また、玄関口以外には段差はなく、動線の確保など、バリアフリーに配慮するとともに、個々の特性に応じた分かりやすい情報提示を行っています。	未就学児童のトイレの環境設定をもっとできればいいと思う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		生活空間は、日々の清掃や整理整頓を行い、清潔で心地よく過ごせる環境を整えています。また、子どもたちの活動内容に応じた空間づくりを行っています。毎日トイレ、教室の掃除をしっかり行い、玩具の整理整頓も意識してできていると思う。	潔の面と言えば水回りに窓がない為、匂いが困ることがある。その為児童来所前などの換気などを心がけるべきかなと思う。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用できる環境を整えており、安心して過ごせるよう配慮しています。	
業務 改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクルについて、職員が参画し、目標設定や定期的な振り返りを行っています。会議や日々の共有を通して、継続的な改善に努めています。	イベントの振り返りに関しては振り返りからの改善の面ができていないように思う。 その為、イベントのねらいが似ている。ことが多くなっていると感じている。マンネリ化を防ぐためにも新たな視点を持つことのできるよう工夫したいと思う。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	保護者には日々りんくでの取り組みを伝えるようにしていることからもうまく事業所の色を伝えることができているかなと思う。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	会議で意見等を共有する機会を設けている	意見ができることはあるが、具体的な解決案が出ていないのが教室の現状だと思うから長く同じ教室にいる人が多いからこそ問題点が見えないのが課題かと思う。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1	会議や日々の仕事ぶりをエリアマネージャーや統括が見に来てくれることが多いように感じるため、他教室での取り組みや課題などを受け取りやすい環境にあるため、	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		別業態の方から研修をしてもらえる機会や交流する機会がある	会議での限られた時間の中では解決案が出ないことがほとんどである。 職員の資質向上を図るため、外部からの講師を招き受講する機会がありますが、もっと業務に自信と安心を持って取り組める為の個人研修の場があるとよい。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	3	3	事前に支援プログラムを共有している。 学習支援として個々に合わせた学習を継続的支援し対話を中心に余暇時間を通して関わりを丁寧にしています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	2	4		保護者からアセスメントシートを頂いているが、職員で読み合わせがないので、あると共通理解が深まるので日々の指導に落とし込むことができるのではないかと。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	2	4	研修時、気になる児童、良かったことなどの意見交換をし、職員間の情報共有を頼りに支援方法を再認識しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	2	4	日々の学習をカード学習やドリル学習で取り組み、共有シートによる確認で個々の児童の学習のつまづきや遅れを伸ばしてはいますが、支援計画がなく、日々カード学習ドリル学習中心で、個々に合わせた学習を支援しています。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2	子どもたちの行動などを日報などを通して細かに伝えることができている分、工夫はされているように感じる。 日々の気になる行動や良いことを毎日の日報に記録で残しチャット共有して支援に繋げている感じになります。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	3	3		現場にその内容がしっかり降りてきていないので、見える化が必要。 個人的には意識しているが、職員全体での共有が出来ていないのでお願いしたいです。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	活動プログラムとしては、日々のカード学習内容と個々に合わせた国語算数のドリル対応になります。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月の活動内容をつと、教室責任者に確認して第三者も入った状態で上手く回せていると思う。 イベントを計画して楽しく学べる工夫をしています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	3	3	余暇時間の活動では子どもたちの苦手の克服や楽しい学びなどを考えにの活動はできていると思う。	個別活動、集団活動としての日々の便宜を組み合わせる学習に取り組んではいるが、特性に応じた児童発達支援計画の作成が必要になってくると感じる。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	2	送迎、カード学習、ドリル学習、余暇時間などそれぞれの持ち場を職員間で各自確認し、現場で随時声かけ合いながら支援を展開しています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		問題が起きたときのみ直接的な共有を行なっていることが多い、しかし日々の日報などから休みの職員も把握がしやすい環境になっている。 終了後には、職員で良かったこと、気になったことを共有しあい日報に入力し、全体チャットにて職員全体で共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4	2	日報で職員間の共有、お便りで保護者との共有ができている。またバンドを使い上手くコミュニケーションができていると思う。	チャットワークや日報で共有しているが漏れがある場合がある
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		教室責任者を中心にモニタリングを行い、話の内容などが現場職員に上手く回っているため	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		担当者会議にも教室責任者が参加し、情報の共有を行うことができている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	3		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	1	担当者会議などの内容から上手く行うことができていると思う、	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4	2		行っていると思うが、職員への共有をもっとして欲しいと思う。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	3	モニタリングなどで担当が入り、情報交換をしている様子が伺えるため		

	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	2	4	保護者様のお店に販売員としての経験をさせて頂いたり、地域なゴミ拾いなどに参加しています。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		お便りを通じたり、お迎え時に直接、現状や成長を伝えることができています。 お便り帳や送迎の際にできるだけ、子どもの成長を少しでも共有できるように心掛けている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	4	保護者カフェや、親子ピクニックなどの行事を展開しています。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		りんくとして行うべきことを日々伝えることができていますから	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			面談時に教室長と保護者様の間で、やりとりがあると思われませんが、児童発達支援計画の現場での活用がよく分からない。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4	2		口頭のみで、具体的な支援プログラムを紙媒体を見せながら行ってないため、
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	1	教室長と面談が行われています。 現場対応じにも、必要に応じて対応しています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		土日の兄弟児利用や行事などを通して、できていると思うから 保護者カフェで保護者同士の会話の機会を設けている	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		できる限りのことを考えてできていると思う。 保護者からの要望についてはりんくの理念と照らし合わせながら決めている様子がある。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		インスタグラムのストーリーの活用で臨場感のある映像を見せることができています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		個人情報のファイル管理、また児童には触らせないようにしている為、	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		お便り帳などでの書きかたなど、児童1人ひとりに合わせた工夫をしていることから	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4		地域との密着の点は弱い。今後イベントで何かできないか考えていきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	2	職員間ではできている。特に嘔吐処理などは説明があり、実践でもスムーズにできた。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	3		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5	1	事前に教室責任者から知らせられているため	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	アレルギーのある児童の把握ができているから	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	3	安全マップを教室に表示し、保護者も安心できる環境づくりができている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4	2	壁などに避難先が書かれた紙を掲示している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	2	4	ひとりひとりが安全に意識を持って行動はできているように思う。	

52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5	1	指導時の振り返りなど職員が“適切な指導”の意識ができてきているように思う。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4	2		